

第1回不登校・不登校傾向対策委員会

6月12日（木）は今年度1回目となる不登校・不登校傾向対策委員会を実施しました。今回は昨年度まで研究所で研究教諭をされ、現在は朝ヶ丘中学校で勤務されている西本一也先生を講師としてお招きし、「つながりをつくる」という演題で、過去の経験や、現在学級担任として生徒にどのように関わっているのか、どのようにつながりを作っていくかについて具体的な事案も含めてお話をいただきました。



私がお話を聴く中で特に印象的に感じたのは、以下の2点です。

①西本先生は子どもに対しての見方が多角的で、子どもの何気ない言動からさまざまな背景を推測されていました。例えば、暴言を発した子どもの言葉をそのまま受け止めるだけではなく、なぜそのような発言をしているかを推察するようにされているそうです。言葉自体はよくないので、そこは指導をしつつ、そこまで子どもが暴言を発することになってしまった原因を探り、解消をしていくように努めているそうです。また、生徒指導で家庭訪問や家庭連絡をする際も、指導をしたということだけではなく、「最近〇〇をよく頑張っていますよ！」といった良いことも連絡をするようにしているそうです。保護者の方としても我が子のいい面を聞けることはうれしく、今後の良好な関係づくりには非常に大切なかわりだと思いました。

②人とつながりを持つ方法はさまざま。教師は生徒「を」つなげる役割だけかと思われるかもしれないが、実は生徒「に」つなげてもらっている場面もよくある。教室に入りづらい生徒に対して、教師が声をかけてもなかなか動けない生徒も、友達が「一緒に行こう！」と声をかけてくれるとすんなり集団に入ることができた、という経験はよくあるのではないのでしょうか？私自身、今まで何度も生徒「に」つなげてもらい、救われた経験が多くあります。教師という仕事を通して子どもの持つ力のすばらしさに気付けることがたくさんあると思いました。



【参加者の感想の一部】

▶西本先生の講演で特に参考になったのは、何かをしてもらうときに選択肢を与え、まずは何か1つを完璧にしてもらう方法です。西本先生のお話では、①ロッカーの整理②連絡帳の毎日提出③自学ノートの毎日提出から1つ選択してもらい、その子が選んだ①を完璧にしてもらうというものでした。何かを成し遂げたことがその子の成功体験となり、最終的には自ら美化委員会に入ったり、②や③も自らするように、少しずつその子の成長を見守ることも大切だと学びました。先生方一人ひとりが、子どもたちに寄り添い様々な実践をされており、生徒との関わりについてご意見を聞くこともできたので、今自分ができることは何か、もう一度考える良い機会となりました。

▶各学校の不登校のケースをグループ協議で聞かせていただくことがとても勉強になりました。本校の不登校・不登校傾向の児童へのアプローチについて、新たな視点をいただくことができました。西本先生の講話は具体的な事例へのご自身の手立てを語っていただき、こうやって子どもたちにああでもない、こうでもない、と試していくことがやっぱり教師だなあ、と感心しました。

▶西本先生の講演を聞いて、子どもたちとの関わりについてとても共感しながらお話を聞かせていただいた。「教師がつながる、つなげる」の意識で関わっていくことの大切さや問題ばかりに目を向けず、子どもたちのいいところに目を向け、それを伝え合うことは自尊心を育てるためにも大切なことだと改めて感じた。

グループワークでは、他の学校も同じように悩んでいることを知ることができ、真剣に不登校児童生徒のことにについて考えながら話し合いができたことが、とても有意義な時間だった。

養護教諭として、不登校児童生徒に対しては、担任との連携協力が必要不可欠であり、少しでも児童生徒が学校に対して、前向きな気持ちになれるような関わりや仕組みを教師としていきたいと思った。

▶須崎市の不登校出現率が高いことを知り、手立てを打たなければならないと感じた。子どもとのつながりを作ることは、とても大切であり、西本先生の講話は大変良かった。自分自身の学級経営にも活かしていきたい。ちょっとした会話などでも、子どもたちにとっては、大きな事かもしれないので大切にしなければならないと感じた。小中のつながりのなかで、子どもの成長を聞くことができ、ありがたいなあと思った。

▶西本先生の講話からたくさん実践と成功事例をお聞きできて、不登校対応は教員側の悩みも多く一進一退の状況ですが、希望を持つことができました。登校することがよいことという時代ではないですが、どの児童生徒にとっても安心できる学校であるように環境づくりに努めていきたいと思いました。グループ協議では他校の状況や取組を共有できて良かったです。家庭環境や友人関係など置かれている状況が厳しい子への対応は、多機関と連携して支援していきたいです。西本先生が言われていたように、子どもには子どもの世界があり、それを理解しようとする気持ちが大切だと改めて感じさせられました。